「いかがわしい下層社会（アンダーワールド）」の音楽とされたレベティコは、今やギリシャを代表する文化だ。
本書は、その魅力の奥にある歴史・社会的な文脈と音楽的本質を語る、最良の手引きである。

ギリシャの音楽、レベティコ

ある下層文化の履歴

イ・ゼレポス著／黒田晴之訳

風響社

本書の内容／著者・訳者紹介

●レベティコのイメージを、歴史学の冷静な眼とギリシャ系移民の子としての血脈から解きほぐし、その歴史・社会的文脈に限りなく迫った、最良の手引き。

●著者自らブズキの演奏家でもあり、リズムの詳細な分析から、メロディー、歌詞、楽器に至るまで、ならではの具体的な描写が伝えきる、音楽的な内実と魅力。

●訳者による精密かつ生き生きとした訳文、そして克明な解説と代表的資料・曲目一覧・索引が、読者を細やかにサポート。

●著者：イオアニス・ゼレポス（Ioannis Zelepos）。
1967 年ハンブルク生まれ。ベルリン自由大学で博士号を、ウィーン大学で教授資格（東ヨーロッパ史と近現代ギリシャ学）を取得。
著書に本書や『ギリシャ小史――国家の成立からこんにちまで』（C.H.Beck, 2014）など。

●訳者：黒田晴之（くろだ　はるゆき）。
1961 年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。松山大学経済学部教授。
著書に『クレズマーの文化史――東欧からアメリカに渡ったユダヤの音楽』（人文書院 2011）など。

［体裁］	［定価］
A５判・並製・304 頁 図版 41 点	本体 2200 円＋税 （ISBN978-4-89489-343-6）

発行所　株式会社 風響社
〒 114-0014　東京都北区田端 4-14-9
電話 03-3828-9249 FAX03-3828-9250
http://www.fukyo.co.jp

注文制です。最寄りの書店にお申し込み下さい。

◎お取扱い書店

序論より

……本書はレベティコという音楽ジャンルのイメージを提供しようとする試みである。このイメージによってその音楽の展開を、歴史的および社会的な観点（パースペクティヴ）から辿るだけでなく、音楽の内実も含めて今まで以上に理解しやすくしたい。なぜなら一般に流布している「レベティコ」概念の用法は、内容に不明確な点のあることが否めないからだ。レベティコとはなんなのか？

この問いについては夥しい数の異なる意見があり、完璧な答えを探そうとしても結局は無駄で、以下に続く本書のページでもそうした答えは出せない。たとえば他ジャンルとの違いは言うまでもなく、この音楽の由来や内容や担った人々といった、基本的な相（アスペクト）についても、わりと最近のことなのに明確なイメージがないのは、驚くべきことだと思われるにちがいない。

このように至った重要な理由の一つとして、レベティコはギリシャの国内でも国外でも、さまざまな神話が染みついているということがあり、この神話のしつこさたるや他の音楽ジャンルは比較にならない。「クツァヴァキス」「マンガス」「レベティス」といった者［後述］や、かれらが「テケス（ハシッシュ吸引窟）」、タヴェルナ、監獄などで送っていた生活、かれらの文化や気質について、雑多な伝説や逸話がやたらと流布し、こんにちのファンにとってはそれが、レベティコから得られる魅力の重要な要素ともなっている。

こうした現在のレベティコ神話の形成には、演奏をしてきた長老も大いに関わってきた。かれらは一九七〇年代初めから自伝を書きはじめ、たしかにそこでは個人的な思い出を語っているのだが、たくさんの矛盾することばかりかときには紛れもない嘘まで述べ、故意だったかどうかは別にして、過去のイメージを捏造する結果となった……